

社団法人 高知県子ども会連合会



高子連だより

No. 5 5

平成24年2月27日発行



JL後期県講習（平成23年11月19日（土）～20日（日））

香南市野市町青少年センターで開催された JL後期県講習

平成23年11月19日（土）～20日（日）（1泊2日 野市青少年センター）において、JL後期県講習および指導者・育成者研修が開催されました。

参加された5名の方に感想をいただきました。

＊・＊・＊・＊・＊・ ＊ 高知県子ども会に参加して ＊・＊・＊・＊・＊

千頭つづり

11月19日土曜日から11月20日まで、高知県子ども会がありました。1泊2日で野市青少年センターで泊まりました。私は小6で、他の6年生がいっぱいいる。そう思っていました。逆に中・高生がいっぱいで小学生は、私をふくめほんの3人くらいでした。いつもはうるさいのに、なぜかだまっていたしまいました。けどいろんな人が声をかけてくれました。それでも1日目はさみしいものになりました。

よく日、私はいろいろな人に声をかけてもらいました。そして2日目はなんだかすっきりした気持ちでいっぱいでした。なぜか2日目は、いつもの自分を全て出すことができました。年上の人も同い年の人も年下の人にも楽しく、しゃべることができました。残念なことに1日目はイヤな日になってしまいました。だから、中学生になったら、巻き返したいです。

私の小学校生活最後の良い思い出になりました。

＊・＊・＊・＊・＊・ ＊ 後期県講習に参加して ＊・＊・＊・＊・＊・＊

隅田帆乃香

初めて来た時は不安だったけど、なれていくうちに友達ができたり、いろんなことを学んだりできてよかったです。

小さい子とふれあうことが普段ないので、よくわからないことがあるけど、ここで学んだことをいかしていけば、仲良くなれたり、話せたりできたことがあってよかったです。

2日間で、班員の人と仲よくなれたり、自分の意見を伝えて、考えていくことも大切だと思いました。

学びつつも遊びを取り入れたりすることで、きんちよう感がとれたり、少し休けい感覚でできることもわかったし、遊びをして、自分が楽しめることを一番に考えるのではなくて、相手に楽しんでもらえることを一番に考えてゲームなどをすることが大切だと思いました。

発表や相手に求められたことを恥ずかしくてはできないので、恥ずかしくてもすることを心がけたいと思います。

＊・＊・＊・＊・＊・＊・ 後期県講習を終えて ・＊・＊・＊・＊・＊

曾我 有喜

今回の第42回後期県講習は私のジュニアリーダーとしての最後でした。

前回までとは違い班をひっぱっていく班長ではなく班長にちよくちよくアドバイスをだしながら班全体を見て班をまとめていくことをやってきました。班長として班をひっぱっていくということも大変でしたが、今回自分の役割としてやった全体をみてその状況にあわせて発言やアドバイス、行動をしたりということは、自分も班の中にくわわってやるけどもそれと同時に班を下から支えるという大きな仕事があることに気づき、自分自身「どうしたらいいのだろう。」と思い悩むことも少なくはありませんでした。

来年からはジュニアリーダーではなくシニアリーダーとして、子ども達やジュニアの前にでても恥ずかしくないシニアリーダーになります。

＊・＊・＊・＊・＊・ 指導者・育成者研修に参加して ・＊・＊・＊・＊・＊

土佐町 今野身和子

「大好きな子どもたちの未来のために、自分ができることは何か。」いつも何かに行き詰まるとこの言葉を思い浮かべるようにしています。

自分の子だけではなく、世界中の子どもたちの平和を願ってやみませんが、自分の仕事や地域での活動、趣味などすべては、私の生きていく上での目標につながっています。

目標に向かってまず自分にできることは何かということと、第一歩を踏み出す勇気を出すようにがんばります。

今回、この研修会に参加したのは、ジュニア・リーダー講習というものがどんなものか知りたかったからなのですが、以前、初めて参加したときのように子どもの中に入って体験するものだと思っていたので、思わぬ収穫があり、得をした気分です。

自身の思いが強く、講師の先生や諸先輩方には失礼な発言があったかもしれませんが、子どもを思う気持ちは同じだということでお許しいただきたいと思います。

この2日間で一番楽しかったことは、子どもたちと一緒にさわいだことです（ゲームをしたこと）。さわいで発散することが大事だということを経験できてよかったと思います。そして、また、厳粛なムードの中行われる灯火のつどい、その中で歌われた童謡など、まさに、現代の子どもたちから失われつつある古き良きものに感動しました。

シニアリーダーと役員の方々とのやりとりや、KYT、クラフト実習などを見たり聴いたりする中で感じたことは、考え方は千差万別。世代間にも当然違いはある。だから自分とは違う考え方やその考えを持つ人と出会い知ることは楽しいということ。そして、その人、それぞれに役割があり

それをうまくまとめて行くのがリーダーであり、仲間なのだということです。

世代間の違いを「溝」にしないためには「温故知新」という言葉がぴったりだと思うのですが、各世代が考えることは皆同じで、自分たちの世代の一つ上の世代に言わせると、下の世代の未熟さにあきれたり、なげいたりします。ですが、そのまた上の世代は下の世代、つまり私たちの世代を未熟だと思っている世代に対して未熟だと思うところがあると聞きます。逆に、未熟な私たちからみて、下の世代は未熟だらけと思い、つい自分たちのことを棚に上げてものを言ったりします。古いもの、新しいものを理解し受け入れ、良いところは残し、改めるところは改める。それが大事だと思います。

人として生まれたからには、何かしら他人と関わります。「個」も大事ですが、コミュニケーションも大事だということをこれからも伝えていきたいと思います。また、排除する判断を誤らぬように気を付け、いろいろなことを体験させてあげたいと思います。

末尾になりますが、2日間お世話になった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

✿・✿・✿・✿・✿・ **指導者・育成者研修に参加して** ・✿・✿・✿・✿・✿

いの町 笹岡 千春

年に2回子どもが参加して、話をしてくれるJL研修会。今回は、育成者研修会もあるという事で興味津々で参加しました。

結果を先に書きますと、大変楽しく、かつ勉強になりました。

ジュニアとのゲームや灯火なども、童心に帰り楽しくはあったのですが、それよりも研修が、おもしろかったです。人数の少なさが、逆に親近感をもつ事につながり、普通の講義形式では聞けない話や、本音の部分を話しする事ができたと思います。

島村先生との講義での、自分自身の居場所、今の子供達についての話など、あらためて考える事ができました。育成者の今野さんとも、色々と話ができて楽しかったです。

他の市町村の子ども会の方とじっくりと話しする事などなかったので良かったです。

島村先生の講義も、2日目の前田さんのKYTも、同じ物を見ても、人は感じ方は様々、十人十彩とはいっているなあと思いました。同じ危険を感じても、どう反応し、どのような対処、対応をとるのかおもしろいと思いました。今回は、指導者、育成者の人々だったので、尚の事自分の足りてない部分なども、わかる事ができたので良かったです。

固定観念はもってないつもりでしたが、やはり年相応に固かったです！地域でも色々な父兄達もいます。やわらかい心で対応していきます。とにかく、この研修は、よくしゃべりました。しゃべらせて頂き、意見を聞いて下さってありがとうございました。

大人数でなくても良いので、またこの様な研修を是非お願いしたいと思います。

高子連の皆様ありがとうございました。お世話になりました。

「人は 顔を見て話し合う」ことから始まる。始めていく事が大事！！

松山市で開催された中国・四国育成者研修大会

平成23年11月12日（土）～13日（日）（1泊2日 愛媛県松山市）において開催されました。他県の育成者と共に学び、経験した感想を本県から参加した2名の方に書いていただきました。

第42回中国・四国育成者研究大会報告

高知県S L'S 國沢 昌史

今回私が参加した第4回分科会のテーマは「たくましいJL、SLの育成」であった。以下その内容である。

- ・提言内容はJLの減少という課題について、鳥取県における事例の紹介が行われた。
- ・助言者の指示により参加者によるグループ討議を行った。
- ・各班それぞれの討議内容の発表を行った。

私が参加したグループにおいてなされた討議内容は「会員の減少」「SLの立ち位置」「SL不要論」などである。毎年のように検討されるこの議題も、限られた時間の中では実質的に前に進む討議が行われることは期待し難いというのが現状である。これは、松山大会に限られたものではなく、私が参加した直近3回の育成研全てにおいて指摘されることと思慮する。私が考える議論が進展しない大きな要因は以下の3つ、

- ① 子ども会組織において主役はあくまで子ども会の会員たる地域の子供達であり、育成者が注力する、あるいは注力すべきは子どもと直接関わるJLの成長である。よって、極論を言えば、絶対的に必要であるとは言えないSLに対して、全国的にも子ども会組織の中でそもそも十分な議論が行われていないこと。
- ② ①の理由により、SLについて課題などが認識される「県子連を超えた機会」が各年開催の育成研のみであること。
- ③ 毎年、課題について準備をせずに開催（参加）することで、参加者側の発言は自己紹介と各県の現状の報告に半分以上を費やす結果になること。

これらを認識し、少しずつでも議論を前に進めるためには、SL分科会参加者がそれぞれ単なる参加者としてではなく、「県の代表として」の立場から参加し、課題を整理した上で議論に臨むことが必要である。またそれ以上の自覚と具体的な準備が開催県には求められる。一例を挙げれば、

1. 提言内容を前もって各県へ告知
2. それに対する具体案、認識、意見を参加県より募集
3. 各県からの意見を開催県が取りまとめ、集約したものを再び各県へ配布
4. 配布されたものを吟味したうえで育成研に参加する

等の手順を踏んでから議論を始めるなどである。しかし、私自身、高知県大会でこのような提案を行えなかったことが非常に残念でならない。

毎年のように議題に上がるものの前進を見せない上記の議論について、そろそろ一定の結論を出す時期が到来しているものと思慮するが、育成研の場でのこれ以上の進展は現状、期待できるものではない。これを踏まえ、SLに係る分科会開催そのものに疑問を持つ育成者も存在し、事実、来年度開催の山口大会ではSLについての分科会は開会されない見込みである。私の率直な意見では、開催県がSL以外で他に優先したい議事があるのであれば、その方針を支持したい。一方で、本県は県子連がSLにまだ「目を向けてくれている方」であり、SLとして活動する私としては恵まれた環境にあることを自覚している。現状、中四国あるいは全国的なSLの立場が確立されていない中で、せめて県内部で、確固たる定義を持ち、「必要とされる存在」として活動に関わっていかれたらと思う。

以 上



研究協議会に参加して

南国市子ども会連合会 事務局 坂本 芳史

私たち南国市子ども会連合会8名は、11月12日（土）～13日（日）の1泊2日、研究協議会に参加させていただきました。開催地松山市は、NHK「坂の上の雲」の番組効果もあり、活気と盛大な雰囲気にもまれた会となりました。その会では、「子ども会の楽しさと、より安全性を創造し、それを実践活動へと結びつけていく方法」というテーマで協議しました。

1日目、松山市久谷地区の子どもからお年寄りまでの幅広い年齢構成による「創作歌舞伎舞踊 伊予八百八狸」という活動発表を鑑賞しました。この活動を通して、異年齢世代とふれあい、学校・家庭だけでは学ぶことのできない多くの貴重なことを学びとっている子ども達の姿がありました。

次に各自それぞれの分科会に分かれ、私は第5分科会「子ども会に役立つクラフトを楽しもう」（指導者 宇都宮東吾さん）に参加。①木の葉でつくろう（魚） ②葉っぱの作品 ③ウサギとテントウムシ の3点の自然の材料を用いたクラフト作品を作る実習を学びました。この実習は、材料集めから子どもも大人もみんなで共に楽しめるものでありました。時間の経つのも忘れるほど夢中になれ、子ども会活動にすぐに役立つもので非常に意義深いものでした。

2日目、まず全体会を行い、1日目の5分科会での内容の発表をおこないました。

続いて、「見えない学力と子ども会」というテーマで、元松山市教育長 土居貴美さんによる記念講演が行われました。

南極大陸での犬ソリ実体験など、極寒の地ならではの貴重な体験談を拝聴しました。また、子ども会の役割としては、社会性の秩序あるものを目指す。そして、集団活動の中で遊びながら楽しく行動でき、子どもの自主性を引き出しながら、さらに失敗の中にも育ちの要素を認め、大きく羽ばたかせる。こうした経験をすることにより、「コミュニケーション能力の発達や協調性・社会性・規則正しい生活の確立など多くのことを学び、生きる力すなわち見えない学力として備わっていく」ことを学びました。

2日間を通して、学校や家庭では学ぶことのできない子ども会の役割の重要性をますます認識しました。幸運な人と子どもとの出会いを作れる人、また、いい影響を与えていける役割の重さも感じ、今後の取り組みに生かせるようにしていかなければならないと思いました。



中国・四国育成者研究大会のようす

香美市で開催された第36回高知県子ども会育成大会

平成24年1月15日(日) 香美市プラザ八王子にて、第36回高知県子ども会育成大会(香美大会)が開催されました。

大会に参加・運営された2名の方に感想を書かせていただきました。

第36回高知県子ども会育成大会に参加して

香美市子ども会連合会 山本 智恵

私は現在子育て中の母親で、今回初めて子ども会育成大会に参加させていただきました。とても、有意義な時間を過ごすことができました。バルーンアートやゲームレクリエーションの研修では、子どもに戻ったように楽しみました。明神宏和先生の講演では、「子供が成長するメカニズム」や「本当の教育」の在り方など、多くのことを学ばせていただきました。私たち大人は、子供たちとどう関わり方をするべきか、自ら学び育つ子供を育てる中で果たす子ども会の役割やあり方、重要性についても考えさせられました。現在は、社会環境の変化などに伴い子ども会活動が衰退しているのが現状のようです。しかし、今のような社会だからこそ、異年齢との交流や、大人や社会とつながる場として、子ども会は大切に思えます。改めて、子ども会を支えて下さっている、指導者や育成者の方々には、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

第36回高知県子ども会育成大会（香美大会）開催にあたって

香美市子ども会連合会会長 三谷恵美子

先日、香美市で育成中央大会が開催されました。今回から開催地の子ども会で運営の準備をするということで、当初、このような大きな大会をこちらで段取ることについてかなりの不安がありました。

高子連の事務局の方の話や過去の大会の内容を参考にしながら、まずは、出来ることから取り掛かっていきました。

日程の調整、開催会場の確保、講演者の選任と依頼、研修内容などを過去の大会を参考にしながら香美市で対応できる内容を検討しました。特に、当日のスタッフの確保を十分にするためにはどうしたらよいか苦慮しました。

子育て真最中の委員さんの参加を促すためには、どうしても時間を短縮する必要がありました。過去のプログラムにこだわると時間を短縮してしまうことが申し訳なく思われましたが、割り切って今回検討した日程で高子連にお願いしました。高子連の方も快く承諾して下さり大会も無事に終わり胸をなでおろしました。

今後も各地区の子ども会が運営をまかされることと思いますが、その地区で無理なくできることをしていく。当たり前のことですが大事だと思いました。

今回の香美大会の開催にあたってご支援ご指導下さいました高子連の皆様、また関係者の方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



高知県子ども会育成大会（香美大会）のようす

平成23・24年度 高知県子ども会連合会

役員名簿

役職	氏名	
顧問	西 森 潮 三	
相談役	横 川 遊 亀 壽	
名誉会員	池 上 隆 一	
	山 中 國 保	
会 長	西 内 昭 男	
副 会 長	杉 村 高 晴	
	前 田 良 二	
	大 藤 時 義	
常務理事	久 保 尚	
	小 倉 卓	
理 事	ブ ロ ッ ク 選 出	清 岡 和 茂
		三 谷 恵 美 子
		森 下 幸 則
		木 下 洋 一
		矢 野 幸 広
		岡 本 國 男
		坂 本 守 正
		大 崎 輝 男
		奥 田 典 子
		吉 村 脩
学識経験	学 識 経 験	吉 永 宣 生
		山 地 巖
		島 村 一 夫
監 事	監 事	野 町 隆 伸
		平 山 佳 志 美
		尾 崎 和 敏
事務局員	藤 岡 和 子	

各種委員名簿

高子連専門員	安全会見舞金審査委員会委員
島 村 一 夫	山 中 國 保
小 谷 正 治	細 木 秀 美
谷 地 森 秀 二	西 内 昭 男
矢 野 宏 光	小 倉 卓
瀬 沼 健	前 田 良 二
加 藤 用 子	
岩 崎 淳 江	
高子連表彰選考委員	法人制度検討委員会
山 中 國 保	中 澤 秀 夫
西 内 昭 男	山 中 國 保
小 倉 卓	吉 永 宣 生
吉 岡 和 夫	小 倉 卓
池ノ上 宏 文	大 藤 時 義

各 部 委 員

地 域 組 織 部	安 全 教 育 部
大 藤 時 義	大 崎 輝 男
清 岡 和 茂	前 田 良 二
森 下 幸 則	奥 田 典 子
吉 村 脩	山 地 巖
研 修 部	広 報 部
杉 村 高 晴	久 保 尚
岡 本 國 男	吉 永 宣 生
森 下 幸 則	坂 本 守 正
木 下 洋 一	三 谷 恵 美 子
矢 野 幸 広	西 込 浩 一
島 村 一 夫	二 宮 大
	加 藤 用 子

「全国子ども会安全会」が 「全国子ども会安全共済会」に変わります。

共済制度変更点

名 称	「全国子ども会安全共済会」
共 済 機 関	2012年4月1日0時～2013年3月31日24時
医療共済金の支払い	健康保険等を適用した医療費総額（医療保険でいう10割分）の30%が医療共済金として支払われる。
加入手続き	① 市子連は、3月31日までに共済契約申込書に必要事項を記載し 県子連に送付する。 ② 市子連は、5月31日までに名簿・行事計画表・掛金（運営費含 む）を添えて県子連に申し込む（補償の開始は4月1日0時）
途 中 加 入	市子連は、申込書（3月31日まで申し込みをしなかった場合）・名簿・ 行事計画書・掛金（運営費含む）を添えて県子連に申し込む（補償 の開始は県子連到着日の翌日0時）
名簿の管理	原本を県子連が保管し控えを全子連・市町村子連・単位子連が保管 する。
共済金請求	被共済者の委任を受けた者（市町村子連）が県子連を通じ全子連に 請求する。 *被共済者とは医療共済金、後遺障害共済金を請求する場合は被共 済者本人（被共済者が未成年の場合はその親権者）とし死亡共済 金を請求する場合は被共済者の法定相続人とする。
審 査	① 県子連では要件審査のみ（要件審査では請求書類の不備がない かを精査する） ② 全子連が本審査（本審査では共済金支払いの有無責の判断と支 払う場合は支払金額を決定し共済金を振り込む）

訂正のお詫び

高子連だより前号7頁「第39
回中国・四国地区子ども会ジュニ
ア・リーダー大会開催」記事
中、河淵智予さんのお名前が間違っ
ていました。

お詫びして訂正いたします。

（社）高知県子ども会連合会

事務局所在地

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号
丸ノ内ビル3F
高知県社会福祉協議会分室内
☎ 088-855-5481 FAX 088-855-5481

編集 広 報 部

久保・吉永・坂本・三谷
西込・二宮・加藤